

第 5 章

寄宿舎の研究

1 研究の概要

(1) 研究主題

社会的自立に向けたスキルアップを目指して

～今養版キャリアプランニングマトリックスを活用した研究～

(2) 設定理由

今年度は本校の第6次研究であるキャリア教育の3年目であり、研究の最終段階となっている。本研究は校内の研究推進委員会が連絡・調整役となって進められており、寄宿舎としても研究推進委員会や学校と連携して研究を進め、キャリア教育についての理解を深めながら一貫した指導・支援を行っていきたいと考えている。

昨年度の事例研究では、日々の指導を「今養版キャリアプランニングマトリックス（以下『マトリックス』と略す）」に照らし合わせ、抽出生徒へのアプローチの仕方を具体的に提示することで統一した指導を行うことができた。そこで、今年度も昨年度と同様にマトリックスを生かしたソーシャルスキルトレーニングの事例研究に取り組み、個別の指導計画作成の際の指導観点について検証を行っていくことにした。これによって、生徒が社会的自立に向けて様々な能力を身につけることができるとともに職員の指導力向上にもつながると考える。

キャリア教育について職員一人一人が理解を深め、生徒が自らの力で「自分らしい生き方」を見いだせるよう、本主題を設定した。

(3) 研究の内容と方法

① キャリア教育の共通理解

- ・学校で行われるキャリア教育学習会へ参加し、理解を深める。
- ・長期休業中に研修会を計画し、キャリア教育の在り方について共通理解を図る。

② 事例研究

- ・男子棟をAグループ、女子棟をBグループとし、対象生徒を1名抽出する。生徒の個々の実態に応じた課題に対して、どのようなスキルを身につけることが求められ、それに対してどのようにアプローチしていくか考察する。
- ・研究主題を各グループごとに設定し、副題はマトリックスの指導観点を参考に生徒の実態に応じた目標を設定する。
- ・研究期間は1年間とする。

(4) 推進日程

- 6月・・・対象生徒抽出、グループ協議、研究内容決定、全体発表・協議、キャリア教育学習会
- 7月・・・寄宿舎研修会
- 10月・・・中間発表・協議、キャリア教育学習会
- 12月・・・キャリア教育学習会
- 2月・・・最終報告、キャリア教育学習会

2 事例報告（Aグループ）

『自立に向けた生活習慣の指導』

（１）事例対象生徒

- ・学科 生活家庭科
- ・障害名、併せ持つ障害及び疾病…自閉症、知的障がい

（２）対象生徒の環境

- ・母、兄の３人家族であるが、母と兄とは別居しており、幼い頃から祖父母に養育されている。

（３）対象生徒の実態

① 基本的生活習慣

- ・基本的な身辺処理については、ほぼ自分で行うことができるが、丁寧に行うことが難しい。
- ・忘れ物や置き忘れが多い。宿題や日記をやり忘れることがある。
- ・２日続けて同じ下着を着続けたり、衣類を洗濯し忘れることがある。同じハンカチを２日続けて持ち歩くことがある。
- ・整理整頓、物の管理をすることが難しい。

② 社会性

- ・日課についておおまかな流れは理解しているが、自分で考えて行動することや時間を意識して早めに行動することが難しい。
- ・衛生面に対する意識を持つことが難しい。
- ・人と会話をする 것을好むが、一方的に話すことが多く、相手の状況や気持ちを考えて話すことが難しい。
- ・場面に応じた言葉遣いや敬語を使うことが難しい。

（４）保護者との連携（家庭での様子、保護者の意向）

- ・家庭では、保護者に頼ることが多く、自分からの行動が少ない。
- ・保護者からも整理整頓ができていないことや忘れ物をする事について注意をしてきたが、行動に変化がみられなかった。
- ・自立に向けて、日課に沿って生活できるようになってほしいとの保護者の意向である。

(5) 課題の設定及び指導仮説

① 実態の整理

- ・自分から考えて行動することが少なく、行動が必要な際には、職員の言葉かけが必要である。
- ・丁寧に行うことが難しく、やり忘れることもあるため、職員の確認が必要である。
- ・生活全般において職員から言葉かけや確認などの支援を多く受けているが、本人が問題意識を持つには至っていない。

② 課題の設定

以上の実態から今養版マトリックスの指導観点「知識・技術」、指導の柱「社会の仕組みなどの知識・技術」より「集団生活を通して、社会のルール、マナー、礼儀などを意識して生活し、行動できる生徒を育てる。」こと並びに、指導観点「自己内省」、指導の柱「課題を解決しようとする心」より「自己決定、自己反省の課程を繰り返し、課題を解決する力を育てる。」を方針とし、下記の課題を設定することにした。

「課題を解決しようとする心を持ち、身辺処理能力の向上に取り組む指導」

③ 指導仮説

本生徒は、経験不足から整理整頓、着替え、洗濯などを丁寧に行うことが難しいことや、やり忘れることがあり、職員から言葉掛けを受けている。特に忘れ物が多いため、翌日の準備については職員から言葉掛けや確認を多く受けている。しかし、これまでの生活の様子から他者に依存する態度が見られ、言葉掛けをされたことについて意識を持って行動するには至っておらず、また忘れ物をしたことについて改善しようとする気持ちを持つには至っていない。

課題を改善しようとする本人の気持ちを育成しながら、身辺自立に対する指導を行うことで、身辺自立の向上を図ることができると考える。

(6) 指導内容及び方法

① 翌日の準備をすることができる。

・準備時間の設定

翌日の準備は、下校後すぐに行う。日記は20：30に書く。

・持ち物確認の徹底

登校前に自分で確認を行う。持ち物については、学校にて日記に書いてきていることから、日記を確認しながら行う。

登校前に職員に確認をしてもらう。

② 清潔に生活することができる。

・下着は、毎朝パジャマから着替える際に着替える。

・下校後、着替えた際に使ったハンカチを洗濯袋に入れる。他の洗濯物と一緒にすぐに洗濯を行う。

③ 自分から行動できる。

- ・忘れがちな行動についてポイントを絞り、行動する時間を部屋に掲示して、確認できるようにする。
- ・週の初めに当番活動を確認する。

④ 整理整頓をすることができる。

- ・洗濯物は自室で干すこととする。衣類を畳む際は、職員と共に行う。
- ・収納場所を設定して分かりやすいように表示する。設定場所に整理整頓できているか定期的に確認する。

⑤ 取り組みの振り返りをする。

- ・特に課題となっている忘れ物と下着の着替えについて、できていたかを毎日チェック表で確認させ、週の終わりに職員と振り返りを行う。できていたときは大いに誉め成功体験を積む。できていないときはなぜできなかったか考えさせ、次週へつなげる。

(7) 指導経過

① 翌日の準備をすることができる。

翌日の準備は下校後、日記を書くのは20：30と、それぞれ設定したことで、忘れずに行う習慣がついた。

持ち物の確認については、日記に書いてきている翌日の持ち物を見落とすことや、干している衣類を入れ忘れることがあり、本人が準備をした段階では入れ忘れがあるため、職員の確認が必要であった。取り組みを始めてから、職員が確認しているため忘れ物は少なくなったが、職員の確認に依存している様子があったため、できるだけ一人で準備を完成させた上で、本人から依頼して職員が確認をするようにした。依然として一人での準備では不備があり、継続して指導していく。

② 清潔に生活することができる。

毎朝、下着を取り替えることにしたことで習慣が付いた。ハンカチを取り換えることも、身につきつつある。それぞれ習慣として身につけてきているが、清潔に対する意識は取り組み前と変わりのない様子であるため、清潔に対する意識が高まるよう指導が必要である。

③ 自分から行動できる。

「登校前」、「下校後」、「午後8時30分」の3つの場面で、本生徒が忘れがちな行動を行うようにし、確認できるように図1を部屋に掲示した。

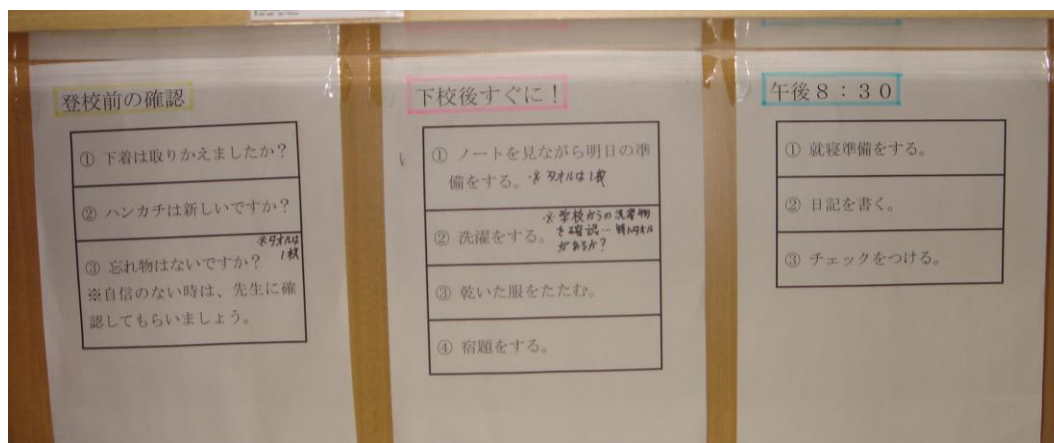


図1 机に掲示

言葉かけがなくとも、決められた時間に自分で行動する様子がみられるようになってきたことから、20:30に行くことについては、20:30までに終わらせるように変更し、時間に幅を持たせて自分で考えて行動するようにした。しかし、下校が遅いときや、やることが多いときなどに急ぐ様子がなく、時間に間に合わせようとする意識を持つには至っていないため、時間を意識して行動できるよう指導が必要である。

当番活動については、初めのうちは職員が週初めに活動内容を知らせていたが、自分から週初めに確認するようになった。現在は職員からは知らせていないが、自分で確認し、忘れずに参加している。

④ 整理整頓をする事ができる。

洗濯をして乾いた衣類は、下校後に畳むようにしたことで、衣類の整理整頓は習慣付いている。取り組みを始めたときは、職員が畳み方の見本を見せながら一緒に畳んでいたが、衣類を丁寧に畳むことが身についたため、一人で行っている。

収納場所についても、収納する物を図2、3、4のように表示したことで、一人で収納できるようになった。



図2 机の引き出しに表示



図3 ロッカーの引き出しに表示



図4 ベッド下の引き出しに表示

物を管理することが難しく、洗濯物は部屋で干しているが、乾いていないものを取り込むことがあるため、指導が必要である。

置き忘れが多く、物の管理について指導が必要である。

⑤ 取り組みの振り返りをする。

置き忘れをすることが多かったことから、チェック表（図5）に置き忘れの項目を加え、毎日チェックをするようにし、週毎に振り返り、反省を行った。

振り返りをしたところ、忘れ物をすることや置き忘れが多かったことについて、できなかった原因や具体的な改善策を考えることが難しく、本人の意識として、注意を受けないようにするというのを一番に考えており、その場限りの反省となることが多かった。よって、本人が課題を意識して生活できるようにするため、先週のチェック表を掲示し、できていなかったことを目にして意識できるようにした。また、課題を改善する意識が高まるように、チェック表に「今週の目標」を加え(図6)、先週までのチェック表をもとに簡単且つ具体的な目標を週初めに立てるようにした。目標を意識して生活している様子が見られてきており、継続して指導していく。

	6月9日	6月10日	6月11日	6月12日	6月13日	今週の反省
	月	火	水	木	金	
朝に下着を着替えた	×	○				毎日着替えるのを忘れた。
忘れ物をしなかった	○	忘れ物をした	○	○	○	

図5 取り組みを始めた時の様式

今週の目標	昨日も見ながら最終石壁に人する。					
	9月22日	9月23日	9月24日	9月25日	9月26日	今週の反省
	月	火	水	木	金	
朝に下着を着替えた		○	○	○	○	おでんを人に入れな かった。
忘れ物をしなかった		○	×	○	○	
置き忘れをしなかった		×	○	○	○	
(置き忘れた物・場所)		洗面室 ベルト	洗面室 ベルト			

図6 新様式・机に掲示

①～④の取り組みにより、身辺自立については向上しているが、受動的な様子であり、本人が意識を持って行動するには至っていない。今後は⑤の取り組みを重点的に進めていった上で、自主的に意識を持って行動し、身辺自立の向上が図られるよう指導を進めていく。

(8) 結果及び考察

① 翌日の準備をすることができる。

翌日の準備をする習慣がついたことから、言葉掛けを極力減らして自主的な行動をみていき、さらなる定着を図った。言葉掛けを減らしたことで、自分で考えて、一人で準備を終わらせられることもあった。しかし、慎重に確認することが難しく、やり忘れがあった際には気がつくことができず、特に職員に持ち物の確認の依頼を忘れてしまい、忘れ物をするがあった。

忘れ物が課題であることから、確認の必要性については、その都度指導したが、常に意識を持つようになるには至らなかった。

② 清潔に生活することができる。

下着の着替え、新しいハンカチの用意、毎日の洗濯など清潔に関する習慣は身についた。清潔に対する意識と理解を深めるため、チェック表では下着の着替えの項目をなくし、「衛生面で気をつけること」の項目を設けて、その週に衛生面で気をつけることを記入するようにした。徐々にではあるが衛生に対する意識がついてきている。

③ 自分から行動できる

就寝準備、日記、チェック表の記入について、20：30までに終わらせるように設定を変えたことで、やりたいこと、やらなければならないことを考えて時間を過ごすようになってきた。しかし、時間がないときでも、他のことに気をとられて行動が遅くなることや、自分の動作にかかる時間を理解することが難しく、20：30までに間に合わないことがあった。

④ 整理整頓することができる。

湿った衣類を取り込んでいることがあり、職員と共に確認して取り込んだが、徐々に一人で確認できるようになった。

置き忘れについては、チェック表により、置き忘れをしやすい物や場面を理解してきているが、確認が定着せず、言葉掛けが必要であった。

持ち物に対して執着がなく、物を紛失しても保護者に新たに購入してもらえば良いという考えを持っていた。保護者に協力願い、紛失して購入が必要になった際には、寄宿舍の小遣いの中から購入することとした。その後、紛失した物はないが、保護者に対する依存の気持ちを減らすとともに、物を大切にし、管理できることにつなげていきたい。

⑤ 取り組みの振り返りをする。

②のとおりチェック表について変更し、毎日のチェックについては、忘れ物と置き忘れに絞った。依然として忘れ物をするものがあつたが、今週の目標や反省の項目では、忘れ物をした原因を考えることや、忘れ物をなくすための具体的な方法を考えることが難しく、職員と一緒に考え、理解を進めていった。振り返りを行い、その場では課題に対して改善しようとする意識を持つようになったが、意識を継続することが難しく、成功体験を積むことができなかった。

今回、課題を改善しようとする気持ちを育成しながら、身辺自立に対する指導を行い、身辺自立の向上を図った。取り組みを行い、身辺自立の面では、経験不足のためできなかったことが、取り組みにより習慣付いたことで、スキルが向上していった。次の段階として自主的な行動を見ていったところ、新たに課題がでてきた。また、取り組み当初から課題であった忘れ物については、少なくなっているものの繰り返されている。これらの課題に対し、本人が改善しようとする気持ちを持つため、チェック表を用いて課題を理解させ、解決に向けて考えるように取り組んだ。しかし、原因や解決策を考えることが難しく、職員の助言のままに、受動的になる様子も見られ、自己決定して課題を解決できるようになるには至らなかった。自分の課題を理解できるようになってきているが、課題を解決するには、課題に対してより深く問題意識を持つ必要がある。また、本人の実態として現時点では多くの支援が必要であるが、支援に依存する様子が見られるため、必要な支援をしつつ、課題と向き合わせて解決できることが増えるよう、継続して指導をしていきたい。